

「土木広報大賞 2018」応募用紙

団体名：フォーラム・シビル・コスモス (FCC)

土木広報活動または作品名：どぼくカフェ

広報活動または作品の概要

活動のきっかけ・経緯「どぼくを楽しむ人発見！」



土木学会関西支部に各幹事会とは別に FCC (フォーラム・シビル・コスモス、土木学のためのフォーラムの意) という団体が 1990 年に設立され、土木工学の枠組みから少し離れた視点を大切に活動してきました。高橋良和・前代表幹事 (現どぼくカフェ支配人) は、いろいろネガティブなイメージを持つ一般の方に、土木関係者からの発信で、土木の魅力伝えることの難しさを実感していました。そんな折、関係者の

意図することなど気にせず土木構造物を楽しむドボクマニアが増えてきていることを知り、そんな人たちを講師に迎えて、一般の人たちの目に触れるところで土木の面白さや楽しさを伝える場を作るべく、2010 年 6 月に第 1 回のどぼくカフェが開催されました。

活動の内容

ドボクマニアによる話題提供

話題提供はドボクマニアを中心にお願ひしています。ダム、鉄塔、高架橋脚、マンホール、国道 (「酷道」) など、土木構造物の中でもかなりの (マト) の狭いものに興味を持つマニアの方が多く、そのような方は土木愛が強いので、熱く土木について語っていただけます。参加者には高校生や主婦もいます。

若者の街ミナミ心齋橋を中心に、人目に付くところで活動

平日の夜の会社帰りを狙い、1 時間半から 2 時間の活動を行います。活動場所は、会議室ではなく、一般の人が往来している場所、と決めています。第 1 回から数回は商店街の一角を借りて活動し、その後、主に大阪ミナミの繁華街、アメリカ村の一角にある「Loop-A」を中心に活動しています。2017 年度には、大阪梅田の地下街の空き店舗や、JR 尼崎駅前のショッピングモール入り口のカフェ、神戸港中突堤の旅客ターミナルなど、開催場所を新たに発掘していたことにより、本拠の「Loop-A」に戻ってくるのが年明けになるほどでした。



年 5 回程度、時に全国へ

審査対象期間 (2016・17 年度) には関西地区で計 12 回開催。これ以外に鳥取、熊本、福岡などにどぼくカフェ支配人 + 話題提供者が呼ばれて「全国公演」を行います。2010 年以降、不定期ながら継続的に年 5 回程度のどぼくカフェを開催し続けてきました。

土木の「再」発見ではなく、土木を「新たに」知る、見る、機会の提供

どぼくカフェは学会員向けの活動ではありません。なので、どぼくカフェは、普段接している土木の中に楽しさ、面白さ、美しさを再発見する活動ではありません。まちの中に隠れている土木を切り取り、風景から土木を浮かび上がらせ、土木の魅力を新たに知るきっかけにする活動です。

広報活動の効果

参加者アンケートによる聞いてみたい土木トピックの収集と高い満足度評価

毎回参加者にアンケートを実施し、どぼくカフェで聞いてみたい土木トピックを収集しています。また、内容に対する5段階評価では最高評価の「大変有意義であった」が70%以上です。

2016～2017年度の参加者数 のべ450名+たまたま通りかかった人へのアピール

1回当たりの定員は20名程度が中心ですが、100名以上とした企画も行い、2016～2017年度中のどぼくカフェ参加者（着席者）数は延べ450名を越えます。特にどぼくカフェでは着席者以外へのアピールに力を入れており、オープンスペースでの開催時には足を止めて聞かれる方も多く、着席者以外の方にもマンホールコースターの配布などを通じて、興味を持ってもらうようにしています。

関西エリアで33回開催、全国に波及、土木の広報コンテンツとしての認知も高まる

2010年の初回以降、関西のあちこちで33回開催し、関西以外でも「どぼくカフェ」を冠して20回以上の開催実績があります。特に、土木学会100周年記念事業として採択された以降は、他支部での実施が独立して、あるいはFCCと協力して継続して行われており、土木の広報コンテンツとしての認知も高まっていると考えております。

東急ハンズやマンガミュージアムとのコラボ、京都駅ビル大階段での開催まで

「どぼくカフェ」のアイデアは他の形に波及していきます。審査対象期間以前ではありますが、大阪駅前の東急ハンズのカフェスペースでの「どぼく+ハンズ」を開催し、1ヶ月半にわたり、カフェをマンホールや高速道路のサイン、ヘルメットで埋め尽くしました。その後、2016年3月3日～5月10日には、京都国際マンガミュージアムでの「どぼく+マンガ」展の企画展示が行われました（FCCフォーラムとして、京都駅ビル大階段前ステージでのトークイベントも合わせて開催）。これらのコラボイベントでは土木になぞらえたスイーツも登場、企画もりだくさんで運営しています。



「自然体」だから「つたわる」、そして「知りたくなる」

講師にダムマニア、国道（たまに酷道）マニア、橋脚マニア、暗渠マニアなどなど、土木技術者でもないのになぜか土木好きになった皆さんをよく招きます。土木愛が「自然体」だから「つたわる」、そして「知りたくなる」、の良い循環がこのカフェの基本で、広報効果の根本を成すものです。



付属資料の提出

■あり・□なし（どちらかに印（■）を付けてください。）